



<報道関係各位>

ニュースレター (9月)

2018年8月29日

アート・カルチャーのハイシーズンを迎えるフランスに、日本の芸術文化が目白押し！！

「ジャポニスム 2018 : 響きあう魂」 9月から始まる公式企画・最新情報のご紹介

9月のパリは、バカンスに終わりを告げて、フェスティバル・ドートンヌ・パリやパリ・デザインウィーク、ファッション・ウィークが行われるなど、街中が華やかな雰囲気になります。さらに第3週の週末は『ヨーロッパ文化遺産の日』として、歴史的建造物や美術館の多くが無料公開されるなど、アート・カルチャーのハイシーズンを迎えます。

さて、2018年7月よりスタートした日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018 : 響きあう魂」では、秋のシーズンを迎え、日本を代表する注目の企画が目白押しです。メディアの皆様におかれましては、この機会に是非貴媒体にて、ジャポニスム 2018 を紹介下さいますよう、何卒宜しくお願いいたします。

■ 9月から始まるジャポニスム 2018 公式企画ラインナップ <https://japonismes.org>

◀ 展覧会 ▶

※ラインナップは次頁に続きます、各企画の内容は次頁以降をご覧ください

タイトル	会期	会場
「若冲—<動植綵絵>を中心に」展	9月15日～10月14日	パリ市立プティ・パレ美術館
「香取慎吾 NAKAMA des ARTS」展	9月19日～10月3日	カルーゼル・ドゥ・ルーブル シャルル5世ホール
【特別企画】パリ東京文化タンデム 2018 アール・ブリュット ジャポネⅡ	9月8日～ 2019年3月10日	アル・サン・ピエール美術館

◀ 舞台公演 ▶

タイトル	会期	会場
雅楽 宮内庁式部職楽部	9月3日 (パリ公演) 9月6日 (ストラスブール公演)	フィルハーモニー・ド・パリ コンセルバトワール・ド・ストラスブール
松竹大歌舞伎	9月13日～19日 (9月17日休演)	国立ジャイヨー劇場
日仏ダンス共同制作 トリプルビル	9月18日～11月14日	国立ジャイヨー劇場、リヨン・ダンスピエンナーレ 他
野村万作・萬斎・裕基×杉本博司 『ディヴァイン・ダンス 三番叟』	9月19日～25日 (9月23日休演)	パリ市立劇場 エスパス・カルダン
現代演劇シリーズ タノクrou演出 『ダークマスター』『地獄谷温泉 無明ノ宿』	9月20日～24日 (ダークマスター) 9月25日～29日 (地獄谷温泉)	国立演劇センター ジュスビリエ劇場
現代演劇シリーズ リーディング 鮎屋法水作『ブルーシート』、前川知大作『散歩する侵略者』	9月22日	パリ市立劇場 エスパス・カルダン
野田秀樹演出『鷹作 桜の森の満開の下』	9月28日～10月3日 (10月1日休演)	国立ジャイヨー劇場
ジャポニスム 2018 テクノ・イベント テクノ・コンサート	9月28日	ポンピドゥー・センター
ジャポニスム 2018 テクノ・イベント TOKYO HIT vol.3 クラブ・イベント feat.石野卓球	9月28日	パリ日本文化会館

◀ 映像 ▶

タイトル	会期	会場
日本映画の100年 「日本映画の発芽」	9月26日～10月22日	シネマテーク・フランセーズ 他

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局 / ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

「生活文化他」

タイトル	会期	会場
「日本の食と文化を考える」シリーズ Pompidou Extra Festival!「亡霊の饗宴」	9月8日	ポンピドゥ・センター
エッフェル塔特別ライトアップ 「エッフェル塔・日本の光を纏う」	9月13日～14日 20時30分～翌1時	エッフェル塔
伝統工芸シリーズ 匠の技と美一手技	9月15日～22日	パリ日本文化会館、 ESPACE DENSAN (Maison WA 内)
日仏ダイアログ① 講演会「クローデルの『繻子の靴』」	9月25日	パリ日本文化会館
「日本の食と文化を学ぶ」シリーズ 日本食アトリエ「調理師学校・シェフ向け」	9月27日	ジャン・ドルアン調理師職業校
「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ 酒巡り in Paris	9月29日～10月5日	パリ市内のレストラン、バー、24軒

■各企画内容について
「展覧会」
「若冲一「動植綵絵」を中心に」展

欧州初の大規模な若冲展。宮内庁三の丸尚蔵館の若冲最高傑作、『動植綵絵』を、相国寺蔵『釈迦三尊像』と共にパリで紹介。

江戸中期の京都で活躍し、その緻密な描写と色彩で、日本国内でも絶大な人気を誇る伊藤若冲。最高傑作とされる『動植綵絵』（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）は、動植物の丹念な観察を通じて得られた現実の姿と、空想の世界を絵画として具現化した作品で、その驚くべき緻密な描写と極彩色で描き上げられた花鳥画は、芸術的にも、技巧的にも、日本美術の最高水準を示すものです。

本展は、「ジャポニスム 2018」のメインプロジェクトの一つとして、若冲の作品の中でも、最も注目を浴びている代表作『釈迦三尊像』と『動植綵絵』全33幅をまとめて、欧州にて初公開します。

これまでに、海外で『動植綵絵』全30幅が一堂に展示されたのは、2012年に米国ワシントン・ナショナル・ギャラリーで開催された展覧会のみです。



伊藤若冲(群蝶圖) (動植綵絵30幅のうち)
宮内庁三の丸尚蔵館蔵

「香取慎吾 NAKAMA des ARTS」展

歌手、俳優といった活動にとどまらず、現代アーティストとして壁画、オブジェ、絵画、さらには自身のSNSなど幅広いメディアを通じ常に表現活動を続け、大きな反響を得ている香取慎吾初の個展。

展示内容は、香取自身がそうであるように既成の枠にとらわれずあらゆる枠組みを超えていくものとなる。「アートを題材にして NAKAMA とつながりたい」というコンセプトのもとに制作された絵画、オブジェだけでなく、ファッションや「弱さ」が「強さ」というコンセプトのもとフランス初上陸となる「ZUKIN【頭巾】」を何個もつなぎ合わせたドーム型の形をとる「新しい建築」とのコラボレーション作品も紹介する。(後援：木下グループ)


報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局 / ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp



【特別企画】パリ東京文化タンデム 2018 アール・ブリュット ジャポネⅡ

アール・サン・ピエール美術館では日本のアール・ブリュットを紹介する2回目の展覧会を開催します。アール・ブリュットが現代アートの領域で独自の存在感をもつようになる中で、アール・ブリュット発祥の地の西洋の枠組みを超えて、日本発のアール・ブリュットはその可能性の拡大の一翼を担っています。

出展作家52組からは、どの文化にも独自の神話や表現手法を生み出すアーティストがいるということが分かります。伝統的な陶芸から折紙の応用のようなものまで、作家たちはあらゆる手法と材料をもちいて制作に取り組んでいます。

本展には初めて海外出展される展示作品も多くあります。一方で、2013年のベネチア・ビエンナーレでも賞賛された澤田真一氏は新作を携えてパリに再び戻ってきます。澤田氏の作品にも見られるように、創造とは、まさにアール・ブリュットという概念の提唱者として知られるジャン・デュビュッフェも語ったように、「完全に純粹で、なまで、再発見された、すべての相の総体における作者による芸術活動であり、作者固有の衝動だけから出発している」ものです。

本展は『アール・ブリュット ジャポネ』(2010-2011)に続く第2弾です。また、連携企画として、知的障害者によるプロの和太鼓集団「瑞宝太鼓」の公演もあります。2019年2月23日(土)と24日(日)にナント市のフランス国立現代芸術センターリュール・ユニックで、2月27日(水)と28日(木)にパリ日本文化会館でパフォーマンスを披露します。



福井誠『双龍ドロー・ウーグ』(2018年)
写真:高石巧

《舞台公演》

雅楽 宮内庁式部職楽部

宮内庁式部職楽部による雅楽の公演。

平安時代に端を発し、宮廷、貴族社会、有力社寺で演奏されてきた雅楽が、平成のパリで蘇ります。

実に千数百年の歴史にも及ぶ伝承を守る宮内庁式部職楽部が、器楽を演奏する「管絃」、舞を主とする「舞楽」、声楽を主とする「歌謡」を披露します。雅楽は歴史的、芸術的に世界的価値を有する伝統芸能として、2009年にはユネスコ無形文化遺産にも指定されました。古代アジア各地の歴史が色濃く反映された「現代の古典音楽」は、音楽関係者を中心に海外でも注目を集めています。雅な歌と舞、豪華絢爛な装束による「世界最古のオーケストラ」とも呼ばれる宮廷音楽を、平成のパリに再現します。



宮内庁式部職楽部提供

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央(070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp



松竹大歌舞伎

パリが待ち焦がれた日本の歌舞伎。

今をときめく人気俳優の中村獅童、中村七之助が国立シャイヨー劇場にて華やかに御目見得！

日本の歌舞伎が国立シャイヨー劇場のシーズンオープニングを華々しく飾ります。本公演がパリデビューとなる中村獅童と中村七之助による歌舞伎の代表作をお楽しみ下さい。



(左) 『鳴神』 鳴神上人：中村獅童 ©篠山紀信
(右) 雲の絶間姫：中村七之助 ©松竹

いろもようちよつかりまめ

『色彩間刈豆かさね』

きねがわ

下総国羽生村の木下川堤で、与右衛門と腰元かさねは道ならぬ恋の末、心中を決意。そこへ、草刈鎌が突き刺さった髑髏と卒塔婆が川面に流れてきます。かつて自らが殺めた男の髑髏と気付いた与右衛門が、鎌を引き抜いて髑髏を割ると、かさねが顔を押し付けて苦しみ出します…。美男美女ふたりの風情を描く前半、後半の立廻りと殺しの場、さらにはかさねが怨霊と化して与右衛門を引き戻すクライマックスと、全編に歌舞伎の様式美が溢れる舞踊劇の名作です。

なる かみ

『鳴神』

平安時代、朝廷に恨みを抱いた鳴神上人は、世界中の龍神を滝壺に封じ込め、その結果雨が一滴も降らなくなりました。そこで、鳴神上人の行法を破り雨を降らせるべく、帝は雲の絶間姫を鳴神上人のもとに差し向けますが…。美貌の雲の絶間姫の色香によって高僧である鳴神上人が墮落、破戒する分かりやすい筋立てで、男女の愛欲情痴を描き出します。前半は古風でおおらかな台詞劇、後半は豪快な荒事と見どころの多い一幕です。

日仏ダンス共同制作 トリプルビル

日仏の注目アーティストが共に創り出すヒップホップ・ダンスの最前線。

日仏のヒップホップ・アーティストを交流させるこのプロジェクトは、Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018 のディレクターを務めるフランス人振付家ドミニク・エルヴュのアイデアから生まれました。高い芸術性を備えたヒップホップ・ダンスで注目されているカデル・アトゥと近年頭角を現している若手振付家ジャンヌ・ガロワが5人の日本人ダンサーをオーディションで選出し、共に新作に挑みます。さらにフランスでは初公演となる MIKEY 率いる東京ゲゲゲイが加わり、三者三様の感性とアプローチによって生み出される作品は、ヒップホップ・ダンスのイメージを全く一新するものになるでしょう。これらの作品は横濱で創作、上演された後、国立シャイヨー劇場、リヨン・ダンスビエンナーレなどフランス国内各地をツアーします。



(上) Kader Attou©CCN La Rochelle
(中) Jann Gallois©Jody Carter
(下) Tokyo Gegegay©Arisak

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局 / ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp



野村万作・萬斎・裕基×杉本博司 『ディヴァイン・ダンス 三番叟』

日本を代表する現代美術作家・杉本博司による舞台空間の中、第一線で活躍する狂言師・野村万作、萬斎、裕基の親子三代による夢の共演！三人三様の三番叟に挑みます！

『三番叟』

三番叟は我が国に伝わる幾多の芸能の中でも、最も古い形式を留める古曲である。その源は天照大神の天岩戸伝説の頃まで遡ることができると言われている。この舞は、神が降霊する様を現したものであり、神事として最も重い曲として扱われる。その曲の流れは、時に静かに、時に激しく、舞を舞う生身の人間の身体に、密かに舞い降りる神霊の姿が見え隠れする。我が国における神の姿は、古来より気配としてのみ現れる。その気配は、現代社会へと墮した今日の日本にあっても、確実に存在することを、あなたは目の当たりにする。そして神が秘そむ域で、あなたは息を潜める。鏡板にかえて、雷(いかづち)を染め抜いた幔幕をもって古代の神話空間とした。

『月見座頭』

「狂言」は悲劇的なテーマを持つ「能」と共に演じられる。死者の霊を呼び出して昔語りをさせるという、時空を超えた舞台に観客の心は魅了される。舞台が終わり、死者の魂が黄泉の国に戻っていく様を目の当たりに見た人の心が、冥界に迷い込む恐れがある。その観客の心をこの世に引き戻す為の演劇的な仕掛け、それが喜劇としての狂言である。

笑は人の心を弛緩させる。日常とは心の弛緩であり、演劇とは心の非日常である。笑は時として日常の中に潜在する不条理の中にある。狂言『月見座頭』はその極みを表現する。盲者が月見をするという設定がまず不条理である。しかし話を聞くと、満月の光を浴びて喜ぶ秋の虫の音に聞き入ることで、盲者はその心に名月を見るのだという。その盲目の詩境を共に過ごす日常者としての眼明きは、酒の酔いとともに、盲者だけに見えているその詩境に嫉妬をし、人格が豹変するのだ。共に酒を酌んだ友が、別れた後に暴漢となる。盲者にとっての善者と悪者は、実は健常人一人の心に潜む心の裏表であったことを、その盲者は知る術もないことが観客の笑を誘う。

笑は人の心を弛緩させる。しかしその笑いの中にも、底知れず深い、人の心の闇が広がっているのだ。

(杉本博司)



(左) 『月見座頭』世田谷パルティシアター「狂言劇場」その参 野村万作
©Shinji Masakawa
(中央) 『三番叟』野村萬斎
©公益財団法人小田原文化財団
(右) 『三番叟』野村裕基
©Shinji Masakawa

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp



現代演劇シリーズ タニノクロウ演出 『ダークマスター』『地獄谷温泉 無明ノ宿』

ここでは日常か、非日常か。倒錯した世界で生きる人間を緻密に描くタニノクロウ、2作品一挙に上演！

2016年パリで初演を迎えたタニノクロウ率いる劇団ペニノ、観客の熱い期待に応え、早くも2作品をフェスティバル・ドートンヌ・パリで上演します！

『ダークマスター』

大阪にある洋食屋「キッチン長嶋」。超一流の腕を持つマスターが一人でやっている小さな洋食屋にある日、一人の若者が客として訪れる。マスターは自分の代わりにここのシェフになれと提案するが、若者に料理人の経歴はなく、マスターは若者に無線を使って料理の手順を伝えるという。行く当てもない若者はそれを引き受けるが…。

『地獄谷温泉 無明ノ宿』

舞台は山奥にある古い湯治宿。秋が冬支度を始めたある日、東京から風変わりな二人の親子がやってきたことから物語は始まる。この宿の主人に頼まれて人形劇を見せにきた人形遣いの親子。村人たちはこの風変わりな親子の突然の訪問に、困惑する一方、強く興味を惹かれていく。村人たちが心の深淵を揺さぶられ、暗部を露わにしていく様を描いた2016年岸田国土戯曲賞受賞作品。



(上) 『ダークマスター』
©Takashi Horikawa
(下) 『地獄谷温泉 無明ノ宿』
©Shinsuke Sugino

現代演劇シリーズ リーディング 飴屋法水作 『ブルーシート』、前川知大作『散歩する侵略者』

近年、日本で大きな話題となった2つの戯曲をフランスの俳優たちがリーディング上演します。

飴屋法水『ブルーシート』

現代美術家・演出家・劇作家・パフォーマーでもある飴屋法水が、福島県立いわき総合高等学校*の生徒たちとやりとりをしながら書き下ろした戯曲。同校のアトリエ公演として、飴屋演出により、東日本大震災の記憶がまだ冷めない2013年1月末に上演。第58回岸田国土戯曲賞受賞作。登場人物は10人の高校生のみ。会話の断片やモノローグを重ね、それぞれの中に刻みつけられた東日本大震災と原発事故の記憶、その街に暮らす現在が、鮮やかにすくい取られており、パリでは若い俳優がリーディングします。

*演劇を授業に取り入れていることで知られる福島県立の総合高校。



(左) 飴屋法水 © Mequmi Nakaoka
(右) 前川知大 © Ramon Onizawa

前川知大『散歩する侵略者』

2005年に初演、その後前川が主宰する劇団イキウメが上演を重ねている作品です。黒沢清監督が『散歩する侵略者』(邦題。映画の英語題は“Before We Vanish”)として映画化し、2017年カンヌ国際映画祭ある視点部門に出品され、本年には20か国以上で公開される映画の原作です。舞台は、日本海に面した小さな港町。数日の行方不明の後、子供のような人格となって帰ってきた夫と向き合わざるをえず、戸惑う妻。町には似たような症状の人間がぽつぽつと出没しはじめる…。身近な社会に現れる不思議な現象を通して人間への深い洞察力をみせる前川戯曲の真骨頂ともいえる作品です。

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局 / ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

野田秀樹演出『贗作 桜の森の満開の下』

「日本の素晴らしい作品が集結する『ジャポニスム 2018』の公演ならば、ぜひ、野田秀樹作品を！」と、国立シヤイヨー劇場直々のラブコールを受けて、野田秀樹、3 度目となるパリ公演が実現！

野田秀樹が敬愛する作家・坂口安吾の『桜の森の満開の下』と『夜長姫と耳男』を主な下敷きとして、そこに幾つもの安吾作品のエッセンスを散りばめるといふ大胆な剽窃（= remix）によって、野田にしか描くことのできない壮大な戯曲を書き下ろした作品、『贗作 桜の森の満開の下』。1989 年の初演以来、野田作品の中でも伝説となった舞台がパリで花開く。

珠玉の名作を引っ提げ、野田秀樹と演劇界最強の日本代表メンバーがパリを席卷する!!



ジャポニスム 2018 テクノ・イベント TOKYO HIT vol.3 クラブ・イベント feat.石野卓球

パリ日本文化会館で第 3 回を数えるオールナイト・イベント。第 1 回からともにイベントを作り上げてきたフランスの音楽イベント集団 Take Hit に加え、今回はボンピドゥー・センター、そしてパリにて Techno Parade や Paris Electronic Week など、大規模なテクノ・イベントを開催する Technopol とタイアップしてイベントを実施します。

Ken Ishii を迎えた前回に続き、今回ゲストに招くのは別の切り口で日本のテクノ界を黎明期から牽引してきた石野卓球。電気グルーヴのメンバーとして知られる石野は、横浜アリーナで 1999 年から 2013 年まで毎年開催されたレイヴ・イベント WIRE の発案者でもあります。同時に 1995 年頃からベルリンを中心とした日本国内外でも精力的に DJ 活動も行っており、1998 年には同市のテクノ・フェスティバル Love Parade の Final Gathering で 150 万人の前でプレイしました。テクノやジャーマン・トランス、アシッド・ハウスの影響を受け、イマジネーションが広がる音色とナンセンスなユーモアの見え隠れする独自の音楽を築いてきた石野卓球。

そのカラフルでちょっと不気味な音楽世界で、今回の Tokyo Hit を高揚させてくれるに違いありません。

Tokyo Hit、フランス語読みはトーキョイト、つまり「Tokyoite = 東京風」。普段、舞台公演に使用するパリ日本文化会館のステージ・客席が、照明や VJ 等の演出で魅せるオールスタンディングの会場になる様もぜひお楽しみください。



ジャポニスム 2018 テクノ・イベント テクノ・コンサート

日本のみならず欧州など世界でエレクトロ・ミュージック・シーンの新しい可能性を追求しながら活動するミュージシャンたちがボンピドゥー・センターに集結！

Forum -1 では、DJ Scotch Egg が最高にハードな 8bit ベース会場を盛り上げ、大ホールで Takami Nakamoto & Sébastien Benoits のオーディオビジュアルプロジェクト「Reflections」、Kyoka の実験的でありながらダンスブルな電子音楽、水を奏でる音楽家 Aki-Ra Sunrise と DJ Ben Vedren のコラボレーションを体感できるクラブ・イベントです。



©DR

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局 / ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

「映像」

日本映画の100年「日本映画の発芽」

日本映画の100年の歴史を119本の映画で紹介。1920年代の作品から2018年の最新作まで、日仏の専門家が共に選ぶ珠玉のラインナップです。

諸外国の中では比較的日本映画が親しまれているフランスでもまだ知られていない作品や監督にも焦点を当てたラインナップを、3部構成で紹介。

皮切りの第一部（2018年9月26日～10月22日）では、フランス映画文化の中心拠点、シネマテーク・フランセーズにおいて、1920～1940年代の映画27本を上映。日本映画の発芽期から黄金期が始まる時代の作品をカバー。9月26日の初日には、活動弁士の坂本頼光と楽団カロード・モトーンが登場。その語りと臨場感あふれる生演奏でサイレント映画に命を吹き込みます。一行はその後、トゥールーズ、リヨン、ニースを巡回します。



『雄略血』 ©Matsuda Film Productions

「生活文化他」

「日本の食と文化を考える」シリーズ Pompidou Extra Festival! 「亡霊の饗宴」

日本の味覚を楽しむだけではありません。アートと食の関わり、地方文化としての郷土食、学際的な食研究、日仏文化におけるお茶の位置付けといった、さまざまな切り口から食の本質に迫り、日仏が共に考えるきっかけ作りをします。

プロジェクト第1弾は、ポンピドゥー・センター「Extra Festival!」企画「亡霊の饗宴」。山崎マリ（漫画家）、川上弘美（俳句）、港千尋（写真家）をはじめとする日仏芸術家・専門家たちが、それぞれの切り口から議論を繋ぎ、各議論に着想を得たメニューをパリで活躍する新進気鋭の日本人シェフ山口祐明が創作、披露するユニークな分野横断的文化事業です。ポンピドゥー・センターと詩人・翻訳家の関口涼子がキュレーションします。

エッフェル塔特別ライトアップ <エッフェル塔・日本の光を纏う>

パリの象徴的存在、エッフェル塔を特別にライトアップ。フランスのランドマークに日本の文化を重ね、フランスを代表するモニュメントが日本の光を纏う、輝くアート作品を創造します。

フランスといえば誰もが思い浮かべるシンボルの一つ、エッフェル塔は、「鉄の貴婦人」とも呼ばれ、フランスで国家的な行事や国際的な催事がある度に光技術を駆使したライトアップにより、夜の顔として美しい光の衣に包まれてきました。今回は「ジャポニスム2018」を記念して、初めてエッフェル塔が日本を題材とする光のアートを身にまといまします。

そんな歴史的ライトアップを手がけるのは、国内照明デザイナーの草分けとして世界各地の街並みや建造物を輝かせてきた石井幹子氏と、パリを拠点に活動する娘の石井リーサ明理氏。

「ジャポニスム2018」で紹介する、日本文化の美しい事象や日本人の美意識を象徴するデザインを音楽に合わせてパリのランドマークに映し出し、「光の都」の夜をさらに華やかに彩ります。



報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム2018 PR事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-23-5 JPR千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

伝統工芸シリーズ 匠の技と美一手技

日本のものづくりの原点、日本各地で長い時間をかけて受け継がれてきた日本の匠の技と美を、工芸品の展示や職人による製作実演とワークショップ等多彩な企画で総合的に紹介します。

日本各地に伝わる伝統工芸こそ、日本のものづくりの原点です。その繊細なデザインと緻密な作り、高い品質は、海外からも高い評価を受け続けてきました。「ジャポニスム 2018」においても、それぞれの土地に深く根ざし、長い時間をかけて受け継がれてきた、日本の匠の技を、工芸品の展示、職人による製作実演とワークショップ、講演、映像上映、シンポジウム等、多彩な企画で総合的に紹介します。

「ジャポニスム 2018」会期中計3回、各約10日間に亘り、それぞれ数品目の工芸品を取り上げて、その美しさと使いごちを伝えます。日本人がものを作ること、使うことについてどう考え、どう感じてきたか、ものに込められた日本各地の人々の思いや暮らしを紹介します。

シリーズ第1弾の今セッションでは、東京染、小紋、備前焼、西陣織を展示、デモンストレーション、ワークショップで紹介합니다。



伝統工芸産業発展協会提供

日仏ダイアログ① 講演会「クローデルの『縺子の靴』」

<日仏ダイアログとは>

様々な催しが盛り込まれ、フランス中で開催される「ジャポニスム 2018」の会期を通じ、日本とフランスの接触と交流の歩みや、両国共通の課題への取り組みをテーマに、シンポジウムや講演、セミナーを実施します。回ごとに文学、俳句、歴史、芸術、社会科学等の切り口を設定し、「ジャポニスム 2018」に至る経緯と意義について日仏の専門家が共に考察し、語り合います。

講演会「クローデルの『縺子の靴』」

登壇者：渡邊守章（東京大学名誉教授）

「日本の食と文化を学ぶ」シリーズ 日本食アトリエ

<調理師学校・シェフ向け>

調理師職業リセ学生やシェフの卵を対象に、日本やフランス在住の料理専門家が日本食材・日本料理に関するレクチャー及び実演指導を行います。将来のフランス料理界を担う人材に、和食のエッセンスと繊細な味覚や技術を紹介して各自の調理に応用・融合してもらうことも念頭に、「日本料理概説」「出汁」「日本茶」「味噌、醤油、みりん、塩麴」「米」「グルテンフリー」「和菓子」「おそば」「お寿司」「魚の活け締め」等のテーマ候補の中から複数を取り上げます。「銀座小十」「銀座奥田」店主で、パリでも懐石料理「OKUDA」を営む奥田透シェフも講師の一人として参加を予定しています。

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp



Japonismes 2018

「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ 酒巡り in Paris

パリ市内のレストラン、カフェ、ワインバー等の協力を得、日本酒をはじめとする日本の「味わい」に触れて、楽しんでもらう機会をパリのみなさんに提供して、「ジャポニスム2018」を広く盛り上げる参加型企画を準備しています。

「酒巡り in Paris」は、パリ市内のさまざまなジャンルの料理店が日本酒蔵元とそれぞれタッグを組み、レストランのシェフやソムリエが各銘柄と相性の合うメニューやアラカルト一品を「ジャポニスム2018」記念メニューとして考案し、その日本酒とともにお客様に提供する特別週間です。毎秋パリで開催される日本酒紹介イベント Salon du Saké のプレ企画として2018年9月29日から10月5日まで、パリの街に24の日本酒と料理のマリアージュがあふれます。(コーディネーション：関口涼子)

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

● Report from Paris

「teamLab : Au – delà des limites (境界のない世界)」展

来場者数が約4ヶ月で入場者数 21.5 万人を突破!!

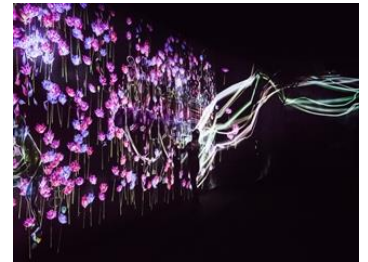
世界中で話題の展覧会を創り出し、国内外で大きな注目を集めているウルトラテクノロジスト集団「チームラボ」が手掛ける大規模な展覧会「teamLab : Au – delà des limites (境界のない世界)」展。国内でも常に話題の彼らですが、フランスでも多くのメディアに取り上げられ注目を浴びています。ジャポニスム 2018 の会期に先駆け5月にスタートしてから約4ヶ月で入場者数 21 万 5000 人を超え、会場の前に行列ができるほどの盛況をみせています。 ※2018年8月27日現在 (開幕から15週間の合計)

アート、サイエンス、テクノロジー、クリエイティビティの境界を越えて、集団的創造をコンセプトに活動し、米メディア CNN の「最も感動した視覚的瞬間」にも選ばれるなど、世界的に高い評価を得ているウルトラ テクノロジスト集団「チームラボ」。本展では、デジタルで描かれた滝が高さ 11 メートルの壁から床へと流れ、来場者の足元で割れながら空間に広がっていく作品や、自分で描いた動物が世界を創っていく教育的な作品まで、大空間を生かしたさまざまな作品が展開されます。デジタルアートによって個々の作品を独立させたまま融合し、境界のない体験と世界を実現することを試みる本展は、インタラクティブな要素によって、作品と鑑賞者の境界や鑑賞者同士の境界が曖昧な体験ができ、こどもから大人までを魅了しています。

会期：2018年5月15日(火)～9月9日(日)

会場：ラ・ヴィレット

パリ19区 La Villette で
絶賛開催中!!



Exhibition View
teamLab : Au-delà des limites,
2018.
Grande Halle de La Villette, Paris
© teamLab

「深みへ-日本の美意識を求めて-」展

本展は、ジャポニスム 2018 のコンセプトを総合的に反映し、あわせて 2018 年に世界に向けて発信すべき「日本の美意識」を紹介する展覧会です。パリ中心に位置する 19 世紀に建てられた大富豪の邸宅ロスチャイルド館を会場に、天井画やシャンデリアによって装飾された各部屋で、伝統的な作品と現代の作品をあわせた 100 余点の作品が展示されました。

例えば縄文土器と、それから想をえた、若手デザイナーのアンリアルイジによる彫刻ドレスは、異なる芸術的ジャンルと異なる時代の中に存在する調和を表す完璧な例であり、日本の美意識における特徴的な価値のひとつである「生命感」を表しています。他にも、奄美大島の自然を描いた田中一村と、同じく南の島に魅了されたゴーギャンの組み合わせなど、10 のテーマに基づいて構成された展示は、建築家ユニット SANAA のデザインした空間とともに訪れる人々を魅了しました。

約1月余りの会期でしたが、3万6千人以上の入場者が訪れました。

会期：2018年7月14日(土)～8月21日(火) 終了しました

会場：ロスチャイルド館

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

和太鼓 DRUM TAO 『DRUM HEART』

7月13、15日のDRUM TAOの公演は、チケットが公演前に両日共に完売し、当日は750名の客席が満員となりました。日本の新たなエンターテインメントとして進化を続けてきたDRUM TAOは、これまでも数多くの海外公演で観客たちを魅了してきました。今回のパリ公演においても、華やかな衣装を身に纏い、大小さまざまな和太鼓や三味線、琴に笛など伝統楽器の演奏とアクロバティックなパフォーマンスが次々と繰り広げられました。圧巻のパフォーマンスを目の前にして、気づけばあっという間に2時間が過ぎ、最後は会場中がスタンディングオベーション。大きな拍手に包まれていました。

会期：2018年7月13日（金）、15日（日） 終了しました
会場：ラ・セーヌ・ミュージカル

【2.5次元ミュージカル】ミュージカル『刀剣乱舞』～阿津賀志山異聞 2018 巴里～

日本ではチケットが即日完売になるほどの熱狂で、公演の度に新たにファンを増やし続けているミュージカル『刀剣乱舞』。パリ公演でも、日本からのツアーが組まれるなど、その人気の高さが窺えます。

7月15日、会場のパレ・デ・コングレド・パリ大劇場に着くと、そこにはキャラクターに扮したファンの姿や、当日券を求める長蛇の列がありました。ヨーロッパ初上陸ということもあり、フランスだけでなく世界各地からもこの公演を楽しみにやってきた人々で開演前から会場は期待感に包まれていました。

上演されたのは、シリーズ第一作の物語を元に2018年版とした「阿津賀志山異聞 2018 巴里」。1部は重厚な歴史ドラマを描いたミュージカルで、迫真の演技、スピード感溢れる殺陣や歌によって、観客は作品の世界観に没入し、真剣に舞台を見つめていました。うって変わって2部は華やかなライブに様変わり。観客はペンライトやうちわを手に応援し、それに応えるように刀剣男士たちは舞台から客席に降りてパフォーマンスを行い、大盛況のうちに舞台は幕を閉じました。公演終了後も興奮冷めやらぬファン達が国籍を越えて交流する姿が見られました。

会期：2018年7月15日（日） 終了しました
会場：ラ・セーヌ・ミュージカル

その他、ジャポニスム 2018 開会式の模様と、開幕に合わせて開催されたオープニング関連企画のイベントレポートは公式サイトをご覧ください。

<https://japonismes.org/reports>

「ジャポニスム 2018：響きあう魂」とは

日仏友好160年の本2018年、両国政府間合意に基づき、芸術の都フランス・パリを中心に、大規模な日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」を開催します。パリ内外の100近くの会場を舞台に、約8か月間に亘り、美術展、舞台公演、映画、その他食や工芸など日本人の日常生活により密着した文化まで含め、さまざまな日本の芸術と文化を、古典から現代まで幅広く紹介します。会期を通じ、約70の公式企画を実施。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を前に、日本文化の多様な魅力をパリに、またパリを通して世界に向けて伝えます。

会期：2018年7月～2019年2月
事務局：独立行政法人国際交流基金
公式ウェブサイト：<https://japonismes.org/>



報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp